

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名（かがやき特別支援学校緑ヶ丘校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		国立病院機構三重病院及び三重大学医学部附属病院の小児科病棟と連携し、児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育の推進の務め、病弱教育のセンターとして県内の病弱教育のコーディネートを担う学校
(2)	育みたい児童生徒像	○入院生活と学校生活を通して、互いに思いやり助け合あったりする中で、しなやかで豊かな社会性を育みあう児童生徒 ○自分の病状等を正しく理解し、体調に応じた行動や必要な援助を求めることができる児童生徒
	ありたい教職員像	○連携する病院との連携を密にし、病弱教育と発達障がい支援の専門的な知識を有し、共感的まなざしをもって、授業改善に積極的に取り組んでいる。 ○本県の病弱教育を軸とした特別支援教育の推進における自分のポジションを意識し、医療センターや同僚、関係機関との協働を通してキャリアアップに努めている。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<児童生徒・保護者・前籍校> 前籍校に戻ったとき学習進度や学力で困らないように学習を進めてほしい。 <児童生徒が入院する病院> 学習や復学の不安なく治療に取り組める取り組み。 <病気の児童生徒が在籍する小中学校、高校等> 支援情報の共有や具体的な助言等の支援。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待 <家庭> 復学時等に学習進度で遅れないこと。 <前籍校> 学習進度や学力、登校 <児童生徒が入院する病院> 学校生活の情報共有。	連携する相手への要望・期待 <家庭> 見守りや励まし。 <前籍校> 支援情報の共有。 <児童生徒が入院する病院> 医療情報等の共有。
(3) 前年度の学校関係者評価等		・かがやき特別支援学校と教育委員会が進める県内の支援の3層構造の構築は、小中学校、高校等と市町教育委員会が進める1次支援、県内5地域の県立特別支援学校が行う2次支援、入院治療が必要な3次支援のそれぞれの役割が明確になってよい。市町の教育委員会や校長会を通して情報発信を行う等、推進に工夫が必要である。 ・復籍支援や教育相談では個々具体の細かな質問になりがちだが、子どもをよく観察することが大切で、子どもがやりたいことをたくさんさせて教員が子どもをつかんでいく中でその子に合った具体的な指導支援が発見できるということを伝える支援が大切。教員の方が不安になっていることがあるのでねばり強く支援していく。 ・場の構造化、視覚化は全ての子どもにとってわかりやすい。UDの授業を進める。	
(4) 現状と課題	教育活動	・児童生徒の病状や一人ひとりの学習状況、前籍校の教科書は様々で、多様な教育的ニーズに応えるために日常的に柔軟な対応を行う必要がある。 ・退院＝前籍校復学等において、不登校等の課題へのこまやかな支援を行う必要がある。 ・病気の児童生徒への支援について、県内唯一の病弱特別支援学校として学校における支援情報の提供を行う。	
	学校運営等	・かがやき特別支援学校本分校3校と隣・併設する病院の多職種の専門職等と連携した「チームかがやき」の機動的支援の仕組みを構築する。 ・業務量が多いことへの対応として導入した3部制の校務運営組織の円滑な運用と総勤務時間の縮減に向けた組織的な取り組みが必要である。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	・児童生徒の前籍校と連携して学習状況に応じた指導の改善を行うとともに、心理面のサポートや家庭訪問等を行い、引き続き円滑な前籍校復籍や進学等につなげる。 ・かがやき特別支援学校3校のそれぞれの教育の特色を明らかにするとともに、病弱教育に関する情報を発信し、地域の学校の支援力向上につなげる。
学校運営等	・かがやき特別支援学校3校の3部制の校務運営組織による3校連携の効率的な運営組織を構築する。 ・チーム力向上と全職員が「やりがい」を実感する同僚性の向上とともに総勤務時間の縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
前籍校との連携、復学や進学に向けた支援の充実	(1) 前籍校と連携して児童生徒の学習状況の把握を行い、退院時の学習進度に遅れのないように計画的に指導を行う。 (2) 長期入院や不登校の児童生徒の前籍校復籍等に際し、前籍校と家庭に加えて適応指導教室等の関係機関と連携し、円滑な前籍校復籍や進学等につなげる。 【活動指標】 課外指導等の実施、関係機関との連携 【成果指標】 課題指導等の実施状況、関係機関との連携状況、児童生徒・保護者アンケート結果において学習の遅れを感じない80%以上	(1) 多様な教育ニーズの児童生徒に柔軟に対応した。 (2) 前籍校復籍に際し、市教育委員会や児童相談所、市福祉担当等との連携の機会が増加傾向にある。 「学習に遅れを感じない：85.0%」	※
センター的機能の充実	(1) 教育委員会、病院と連携した公開講座等を開催する。 (2) 「チームかがやき」の運営等について検討を行う。 【活動指標】 通級指導や食物アレルギー等の研修会の開催 「チームかがやき」の構想検討3回 【成果指標】 研修会参加者アンケート結果において満足80%以上 「チームかがやき」の具体化	(1) 「かがやき夏期講座」として、病院と連携して3回、教育委員会と連携して2回の公開講座を開催した。 (2) 「チームかがやき」とした連携は本分校3校の地域支援等の会議を6月以降毎月開催した。 「研修会参加者アンケート結果：満足98.5%」	◎
改善課題			
・前籍校復籍に際し、前籍校に加えて関係機関との連携が必要なケースが増加傾向にあり、入院＝転入の時から退院＝前籍校復籍を見据えた計画的な支援の構築が一層求められる。 ・小学部を中心に整形外科に入院する児童生徒の在籍が増加傾向にあり、校内の指導体制や安全管理の検討が必要である。 ・「病気の子どもの教育支援」は社会的認知が上がってきており、「チームかがやき」の構想は具体的な構築が必要。			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
校務組織の改善	(1) 3部制の校務組織の運営状況を点検し、改善につなげる。 【活動指標】 改善点6件以上の検討 【成果指標】 6件以上の具体的な改善（業務の平準化、	(1) 校務組織の運営は試行段階に留まった。改善点は30年度当初に反映させることとした。	◎

	新たな業務の分担、等)		
	(2) 3校の共通校務の連携を進める。 【活動指標】業務連携件数6件以上 【成果指標】業務連携6件以上	(2) 3校の校務連携は、コーディネーターの業務体制、教科書選定、人権教育推進協議会、図書館協議会、公開講座、校内研修等で進めた。	
働きやすい職場環境づくり	(1) 働きやすい職場づくりのための改善を検討し、「やりがい」の実感とともに総勤務時間の縮減に取り組む。 【活動指標】職員満足度アンケート結果 【成果指標】職員満足度アンケート結果80%以上 (2) 心身の健康の保持増進や仕事の効率化を図る。 【活動指標】「リフレッシュデー」を月1回実施 年休取得日数の前年度比1日増 【成果指標】「リフレッシュデー」の実施100% 年休取得日数の前年度比1日以上増	(1) 時間外勤務が多い職員には個別に声掛けを行い、状況の把握とともに定時退校促した。 (2) リフレッシュデー実施22.2%、(年休取得日数前年比は学校再編によるデータ不明のため比較不可)	※

改善課題

- ・本分校3校が一体的に業務を行うことによる効率化は試行段階に留まったが、地域支援コーディネーターの連携等は具体的な改善点を見出すことができた。各係が連携するための日程の調整が必要。
- ・3校の共通校務の連携はさらに進めることが必要。
- ・リフレッシュデーの定例化のためのルール作りが必要。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・かがやき特別支援学校再編による校名変更や分校開校に対する所在地での認知度は低い。理解を進めるための広報を行うなどについて検討が必要。 ・保護者代表の委員から「三重病院に入院が決まって学校のことが心配だったが「緑ヶ丘でしっかり勉強をみてくれる」という知人の一言で安心し、実際、感謝している」と評価いただいた。学習進度と学力の定着について一層の充実した取組みを進めることが必要。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・病弱教育(病気の子どもの理解)の一層の効果的な情報発信に取り組む。 ・前籍校へのスムーズな復籍が本校の最重要課題であり、標準化した復籍プログラムを設定するとともに事例の共有を進めて復籍の一層の円滑化を図る。 ・児童生徒の教育ニーズの多様化に対応するため、学部を超えた柔軟な連携を進める。 ・三重大学附属病院に入院する高校生への教育支援を継続し、PDCAによる効果的な実施を進めて高校と連携したコーディネートなどの実績を積む。
学校運営についての改善策	・運営部、指導部、支援部それぞれに部長をおき、各部の業務の進捗状況を把握するとともに一体感をもった部の運営を進める。 ・3校の各係が連携しやすいように共通の会議時間を定期的に設定する。 ・教科書選定等、3校で分担できる業務の分担を進める。 ・県内の病気の児童生徒の教育支援の充実のため、三重大学附属病院に入院する高校生の教育支援のあり方について教育委員会事務局と連携した検討を進めるなど本校の機能強化を図る。